

## 平成25年 新年ご挨拶

2013年1月吉日  
日本製薬団体連合会  
会長 内藤 晴夫

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、先進諸国の経済低迷に加え欧州債務問題を発端とした国際金融市場の混乱が依然として続き、世界経済の先行きは其の牽引役である中国経済の減速などにより不透明感が広まった年であったと思います。その中で、米国、ロシア、フランスの欧米諸国や、中国、韓国、台湾において政治のリーダーが交代し、新たな体制の下で国際政治の枠組みがスタートしたいわゆる政治の一年とも言えました。我が国でも12月に衆議院選挙が実施され、新政権が誕生しました。その中で、社会保障問題は一つの大きな課題であり、昨年成立した社会保障・税一体改革の関連法案に基づき新たに発足した社会保障制度改革国民会議での議論が進められています。今年、社会保障制度を持続可能なものにするための国民的な議論が展開されることになり、その方向性によっては、今後の医療政策、医薬品産業政策に大きな影響を及ぼすことが予想されます。このような中で、改めてわれわれ製薬産業の使命、社会的な意義を確認することが必要と考えます。

製薬産業は、国民的価値である健康に寄与する価値創造型産業であり、災害や国際紛争等に際しては国を守る重要な産業と位置づけられ、その中で、創薬、ライフ関連の内外投資の拡大などによる歳入の向上、あるいは疾病の重篤化の軽減などによる歳出の減少など、我が国の財政・経済成長へ貢献する産業であると言えます。これらを実現しうる製薬産業の価値創造の原点はイノベーションにあります。ここで言うイノベーションとは研究開発型企業における革新的な新薬の創出に留まらず、事業の効率化、剤形・製剤の工夫など、各分野が保有する特性、強みを基に創意工夫を重ね、より患者様・国民の皆様への望み満足度の高い医薬品を継続的に提供する観点から成されるものです。特に新薬開発のイノベーションはその波及効果を考えると、全製薬産業におけるイノベーションの源泉といえます。今年も、新薬の創出を通じ、元気な高齢者層の拡大、疾病の重篤化の軽減、あるいは科学技術の発展等への様々な貢献に努めるとともに、新薬創出を起点としたイノベーションを好循環に回すことで、全製薬産業が各分野において更なる成長機会を生み出し、製薬産業としての使命をしっかりと果たしてまいりたいと思います。

さて、今年は今期薬価制度改革論議が進められます。薬価制度改革を考える上では、ある一部のカテゴリーのみを取り出して議論するのではなく、各々の医薬品カテゴリーの役割や機能を踏まえることが重要であると考えます。新薬創出等加算の本格導入・恒久化、後発品の使用促進、保険医療上必要性の高い医薬品の薬価改定方式、長期収載品の薬価のあり方などについて、個別に議論するのではなく全体的な議論をするとともに、政策バランスをも見据える必要があると考えます。また、我が国においてイノベーションを推進するためには研究開発減税の拡充などの政策が実現されることも重要です。製薬産業として、それらの政策論議にしっかりと参画していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして素晴らしい一年でありますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も引き続きご支援の程をよろしくお願い致します。

(以 上)